英作文指導の実践的ヒント：いわゆる「VTR」をめぐる一考察

田中　宏明
国立大学法人高知大学人文学部
国際社会コミュニケーション学科　英語学研究室

Some Practical Techniques for Teaching English Composition: A Note on the So-called "VTR"

Hiroaki TANAKA
English Linguistics Department at Cross-Cultural Communication, Faculty of Humanities
Kochi University

Abstract

It is generally acknowledged that Google has undoubtedly established itself as one of the most reliable and predominant Web search engines. In this paper, therefore, taking full advantage of Google's "images" search, we learn something about the difference between a so-called "VTR" and a "VCR", with the intention of providing some practical techniques for how to teach English composition in college in an era of high-technology. In the course of the discussion, an error made by the well-known English-Japanese dictionary will be stringently pointed out. I sincerely hope that the present study will greatly contribute to the reform of English language teaching in Japan.

Keywords：英作文指導、「VTR」、「VCR」、Google のイメージ検索、英語学習辞典の欠陥

構成（Contents）

1．序論
2．「VTR」とは
3．英語辞書の記述
4．Google のイメージ検索
5．結語

参考文献

1．序論

日頃英語教師として教壇に立ち学生に対し英作文の指導をする際、思いもよらぬ表現に困惑することがある。本論ではそのような表現の典型的例として「VTR」をとりあげ、英作文指導のヒント、あるいは語法研究への手がかりをつかんでいくこととする。

2.「VTR」とは

国立大学法人高知大学で担当しているある英語授業の流れの中で、次のような簡単な英作文を学生に問い掛けたことがあった。

(1) 太郎は昨日そのVTRを直してもらった。

申すまでもなく「have +目的語(object)+過去分詞(past participle)」の典型的英作文の例文を提示する意図があった。ここでふと気になったのが、「VTR」という言葉である。この場合は当然「ビデオテープレコーダー」という意味で、このVTRという言葉を使ったものである。これに類似する表現で、映画などで聞かれる言葉として「VCR」というものがあり、実際筆者がハーバード大学(Harvard University) 言語学科で客員研究員として過ごした滞米生活 (1997年-1998年) の中でも、「VCR」という表現は何回となく耳にしたが、「VTR」という言葉は聞いた覚えがなかったのではないか。ところが現実問題として、日本語の中では「VTR」という言葉は日常的に頻繁に用いられる。例えば以下のような例である。

(2)「VTR」という言葉の用例:

a. (テレビの司会者が)「それではVTRをご覧になって下さい。」(ビデオ映像を見て下さい、の意味での実際のアナウンス)

b. 向井さんは自身のホームページ (HP) で猛抗議したうえ、HPを閉鎖して“断筆宣言”。一部の発言の前後をカットして流したために誤解を招いたようだが、石原慎太郎発言に続き、またしてもTBSのVTRをめぐる泥沼の大紛争が勃発 (ぼっぱつ) した。
(http://www.zakzak.co.jp/gei/2004_07/g2004073001.html)

c. ソニーベータマックスVTRをご愛用のお客様へ
(http://www.sony.co.jp/SonyInfo/News/ServiceArea/Betamax/)

このような例からわかるように、日本語では「VCR」ということは絶対に無い。それでは「VTR」が正しいのか「VCR」が正しいのか?次節ではこの問題の解決の糸口をつかんでいくこととする。

3. 英語辞書の記述

前節で提起された問題を解決するため、まずは身近な辞書辞典に当たってみることとする。学習英和辞典として定評があり、筆者も日頃活用している『ジーニアス英和辞典』における記述を確認してみた。

(3) 英和辞典での語義記載の実例:

VTR [略] videotape recorder [recording]

(『ジーニアス英和辞典 (第2版)』)

（4）英和辞典での語義記載の実例：

VTR ［略］ videotape recorder、 videotape recording (cf. VCR).

（『ジーニアス英和辞典（第3版）』）

上記（3）（4）を比較すれば明らかなように、『ジーニアス英和辞典』では第2版から第3版にかけて一定の進歩がある。つまり第3版では「VCRを参照（cf. VCR）」の表示があり、その分辞書辞典の情報量としては豊富になっているといえる。しかし、指示に従い「VCR」の項目を見てみると、

（5）英和辞典での語義記載の実例：

VCR ［略］（米） videocassette recorder (cf. VTR).

（『ジーニアス英和辞典（第3版）』）

という記述があるだけで、この両者の具体的相違点等の説明は全くないし、「VTRを参照（cf. VTR）」という指示では、単にまた逆戻りしてしまうだけだ。

次に『Longman Dictionary of Contemporary English』（3rd edition）[LDOCE 3]ではどうであろうか。この辞典の場合「VTR」は見出しにもなく、「VCR」の項目には

（6）英英辞典での語義記載の実例：

VCR n [C] especially AmE videocassette recorder, a machine which is used to record television programmes or to play videotapes; video[1] (3) BrE [LDOCE 3]

という記述がある。このように調べてみると「VTR」という単語は実際のところ英語ではなく、むしろ「和製英語」に近いものではないか、という思いがしてくる。実際、『英辞郎 ver.79』においては

（7）英和辞典での語義記載の実例：

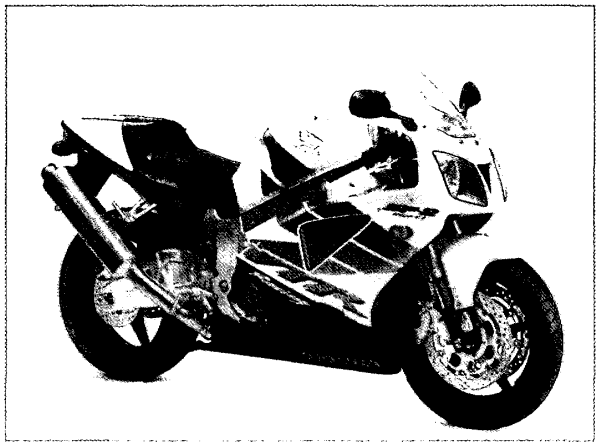
VTR {名}：〈和製英語〉ビデオデッキ◆【標準英語】VCR （『英辞郎 ver.79』）

というように、明確に〈和製英語〉と記載されている。

4．Google のイメージ検索

前節までの考察で、「VCR」が正しい英語で、「VTR」は和製英語であるとの結論に到達した。それでは「VTR」という英語は全く存在しないのであろうか？これに関する有益な情報を提供してくれるのが、今やウエッブ（Web）検索の定番検索エンジンとなったGoogle（www.google.co.jp/）である。それも通例の検索ではなく、「イメージ検索」を使うと良い。やり方は簡単で、「VTR」と入力して、「イメージ検索」をクリックしてから、「Google検索」ボタンをクリックする。すると、驚くなかれ、ホンダのオートバイの画像ばかりが出て来るではないか。

(8)「VTR」画像の実例



(http://moto.power.free.fr/graphisme/wallpaper/1024-768/wallpaper%20honta%20vtr%20blanca.jpg)

念のためアメリカのGoogleのサイト(www.google.com/)で「VTR」のイメージ検索を行ってみたが、同様な検索結果となった。つまり、「VTR」という言葉を英語として用いた場合、これはホンダのオートバイの「商標名」を指すのであり、それ故本論の2節で提示した英作文「太郎は昨日そのVTRを直してもらった。」の「VTR」をそのままの形で英語にすると、極めて奇妙なことになると言える。

5．結語

本論では我々日本人にとって大変馴染みのある言葉である「VTR」という表現を取り上げ、これが完全な和製英語であることを示すとともに、Googleの「イメージ検索」が英作文にも極めて有益であることを立証した。このように精査してみると、日本における英語学習辞典として極めて定評のある『ジーニアス英和辞典(第3版)』にも、残念ながら依然として不備または欠陥があると言わざるを得ない。

参考文献及び利用した辞書・辞典

安藤進(2003)『翻訳に役立つGoogle活用テクニック』、丸善、東京.
英辞郎 ver.79、ランテック社.
小西友七、南出康世　編(1994)『ジーニアス英和辞典(第2版)』大修館、東京.
小西友七、南出康世　編(2001)『ジーニアス英和辞典(第3版)』大修館、東京.
Longman Dictionary of Contemporary English, 3rd edition, Longman, London (2001).

平成16年(2004)11月30日受理
平成16年(2004)12月31日発行